

目次

| | |
|------------------------------------------|----|
| はじめに | 2 |
| 群体の形状の説明 | 3 |
| 各部の用語の説明 | 4 |
| 延岡のイシサンゴ | |
| ミドリイシ科 Acroporidae | |
| ミドリイシ属 <i>Acropora</i> | 5 |
| ニオウミドリイシ属 <i>Isopora</i> | 16 |
| コモンサンゴ属 <i>Montipora</i> .. | 17 |
| ヒラフキサンゴ科 Agariciidae | |
| センベイサンゴ属 <i>Leptoseris</i> | 21 |
| シコロサンゴ属 <i>Pavona</i> | 23 |
| ムカシサンゴ科 Astrocoeniidae | |
| ムカシサンゴ属 <i>Stylocoeniella</i> | 25 |
| ヤスリサンゴ科 Coscinaraeidae | |
| ヤスリサンゴ属 <i>Coscinaraea</i> | 27 |
| キサンゴ科 Dendrophylliidae | |
| スリバチサンゴ属 <i>Turbinaria</i> | 29 |
| ハナサンゴ科 Euphylliidae | |
| オオナガレハナサンゴ属 <i>Catalaphyllia</i> | 34 |
| ナガレハナサンゴ属 <i>Euphyllia</i> | 35 |
| オオトゲサンゴ科 Lobophylliidae | |
| オオトゲキクメイシ属 <i>Acanthastrea</i> | 36 |
| コハナガタサンゴ属 <i>Cynarina</i> | 38 |
| キッカサンゴ属 <i>Echinophyllia</i> | 39 |
| ハナガタサンゴ属 <i>Lobophyllia</i> | 40 |
| コオオトゲキクメイシ属 <i>Micromussa</i> | 41 |
| アザミハナガタサンゴ属 <i>Parascolymia</i> | 42 |
| ダイノウサンゴ属 <i>Symphyllia</i> | 43 |
| サザナミサンゴ科 Merulinidae | |
| マルキクメイシ属 <i>Astrea</i> | 45 |
| トゲキクメイシ属 <i>Cyphastrea</i> | 46 |
| キクメイシ属 <i>Dipsastraea</i> | 48 |
| カメノコキクメイシ属 <i>Favites</i> | 51 |
| イボサンゴ属 <i>Hydnophora</i> | 55 |
| ウスカミサンゴ属 <i>Mycedium</i> | 56 |
| オオナガレサンゴ属 <i>Oulophyllia</i> | 58 |
| ウネカメノコキクメイシ属 <i>Paragoniastrea</i> | 59 |
| ノウサンゴ属 <i>Platygyra</i> | 62 |
| ハナヤサイサンゴ科 Pocilloporidae | |
| ハナヤサイサンゴ属 <i>Pocillopora</i> | 64 |
| ハマサンゴ科 Poritidae | |
| ハナガササンゴ属 <i>Goniopora</i> | 66 |
| アミメサンゴ科 Psammocoridae | |
| アミメサンゴ属 <i>Psammocora</i> | 69 |
| 所属未定 | |
| ルリサンゴ属 <i>Leptastrea</i> | 73 |
| キクメイシモドキ属 <i>Oulastrea</i> | 74 |
| コマルキクメイシ属 <i>Plesiastrea</i> | 75 |

はじめに

本図鑑の作成目的は、宮崎県の北方部でサンゴの調査および研究に携わる方々を初め、レジャーとしてのスクーバダイビングやシュノーケリングでサンゴの観察を行う方々に、サンゴを観察する際の注目および観察すべき生時の様子や骨格の形態を知ってもらい、種同定をできるようになってもらうことである。本図鑑は多くの方々が種同定を行えるように可能な限り専門用語を使わず作成した。本図鑑を通じて多くの方々がサンゴに興味・関心を持っていただければ幸いである。

調査地(採取地) from Google map



島浦島における調査地点の位置

延岡市島浦島でのサンゴ調査の概要

島浦島でのサンゴの分布調査は、2015年5月15日、6月16日、7月23日に延岡市川島町にあるダイビングショップ、延岡マリンサービスと宮崎大学農学部海洋生物環境学科の深見研究室との共同で行われた。これらの調査は島浦島の西部～北西部にかけて多くのイシサンゴ類の生息が確認されている地点で実施した。

島浦島の各調査地点において、可能な限り多くの種を記録するために、別種と考えられるサンゴを全て記録した。スクーバ潜水を行いながら、採集する種の生時の撮影および群体の大きさを記録し定規と共に撮影し、生息水深の記録を行った。種同定用に、ハンマーとタガネを用いて群体の一部を採取した。採取したサンゴは、水道水に数日浸して肉を腐らせ、水道水で10%程度に薄めた塩素系漂白剤に3日～7日ほど浸して肉を溶解させた。その後、漂白したサンゴの骨格を流水で除去しながら洗浄し、直射日光の当たらない風通しのよい場所で自然乾燥をさせて骨格標本とした。

群体の形状の説明

樹枝状の群体

…枝分かかれた群体の形状. 放射状に分岐する形態が多く見られる.

塊状の群体

…半球形の盛り上がり, もしくはコブ状のような塊になる形状.

被覆状の群体

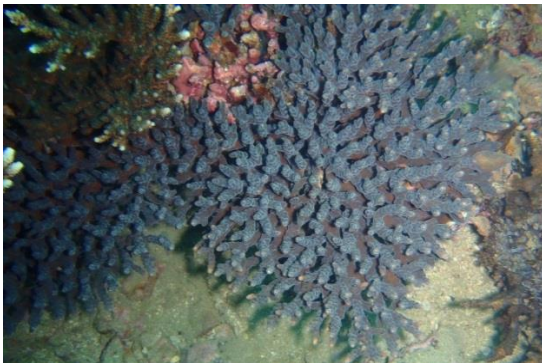
…基盤を薄く覆いながら広がる, もしくは基盤と密着して広がる形状.

テーブル状の群体

…基盤から一本足で横に広がり, 円形の板となる形状.

葉状の群体

…基盤から離れて, 薄く幅広い形状. 被覆状群体が基盤から遊離した様子になる.



樹枝状の群体



塊状の群体



被覆状の群体



テーブル状の群体



葉状の群体

各部の用語の説明

生態:

ポリプ …生きているサンゴの基本単位。形状はイソギンチャクに似ている。

単体サンゴ …1つのポリプおよびサンゴ個体からなるサンゴ

群体サンゴ …複数のポリプが共肉・共骨部で結合しているサンゴ

頂端ポリプ …ミドリイシ属の枝状群体における枝の先端にあるポリプ

側生ポリプ …ミドリイシ属の枝の先端ではなく、周囲に配置するポリプ

触手 …ポリプ上部に配列する細長い突起

口盤 …触手の環の内側における口の周囲

共肉 …ポリプ間をつなげる肉(組織)



骨格:

サンゴ個体 …ポリプの骨格部

莖壁(きょうへき) …サンゴ個体を取り囲み、サンゴ個体どうしを仕切る壁

莖(きょう) …莖壁より内部で、収縮の際にポリプが収まる穴

隔壁(かくへき) …莖壁から莖の中心に向かって放射状に並ぶ仕切りの板

鋸歯(きょし) …隔壁の上縁部に並ぶノコギリ状の突起

軸柱(じくちゅう) …サンゴ個体の中心部にある構造体

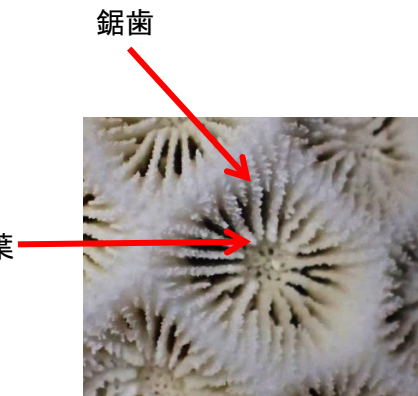
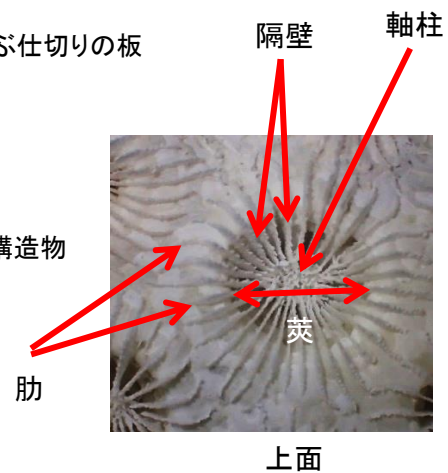
杭状葉(くいじょうよう) …軸柱付近で見られる上方に伸びた構造物

肋(ろく) …サンゴ個体間をつなぐ部分

共骨(きょうこつ) …サンゴ個体間の骨格

中軸サンゴ個体 …頂端ポリプのサンゴ個体

放射サンゴ個体 …側生ポリプのサンゴ個体



側面

クシハダミドリイシ *Acropora hyacinthus*



生きているときの特徴

横方向に伸びる細めの枝が融合してできたテーブル状。枝は密集しており、斜め上方向にも伸びるが、長くはならない。群体のバリエーションは少ない。エンタクミドリイシと同じ場所に生息することが多いため、混同されやすいが枝は細く、密集していることでも区別できる。

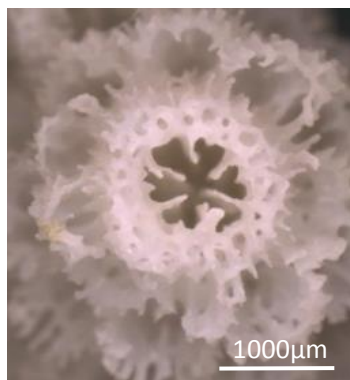
- ・色は茶色、濃い緑色。
- ・生息場所は水深3m～8m。
- ・潮の流れが良い場所に比較的多く生息する。

ここに注目！

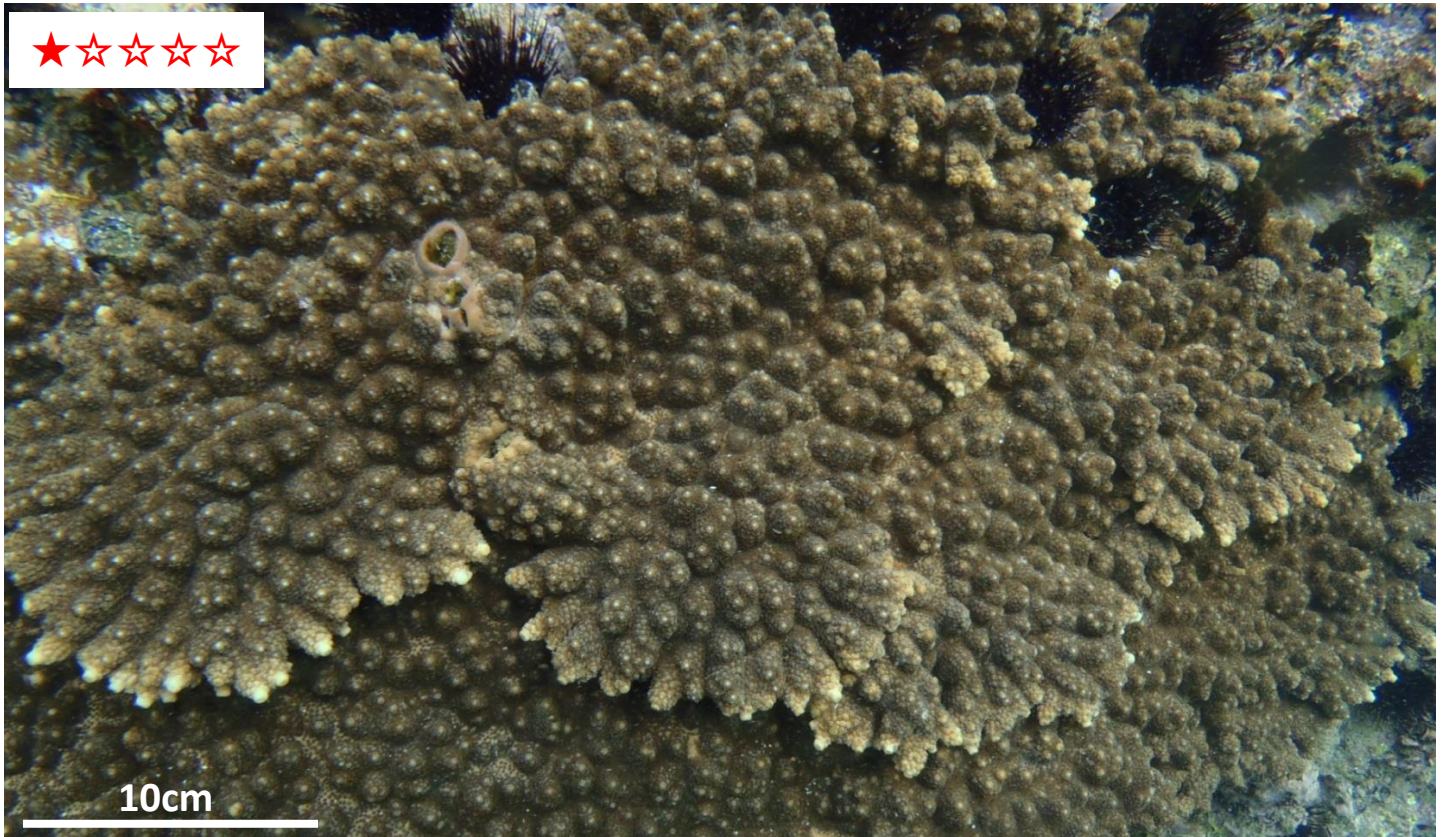
中心部は枝が等間隔で、きれいに配列している。周縁部は枝が伸びるため、網目状に見える。

骨格の特徴

枝の太さはエンタクミドリイシよりも細い。そのため、骨は比較的折れやすい。枝の太さは2.5mm～5.0mmである。中軸サンゴ個体はやや小さめで、枝からの突出は少ない。枝側面のサンゴ個体は半円柱型で、下方からまっすぐ伸びる。枝側面から生えるサンゴ個体の口部付近では、外側の縁が張り出すようになる。



ニホンミドリイシ *Acropora japonica*



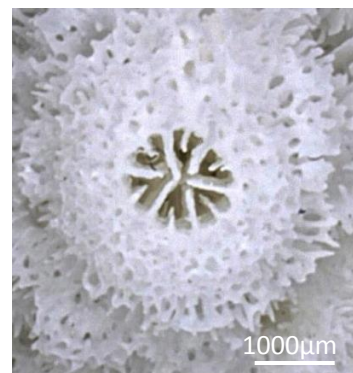
生きているときの特徴

この種の一般的な群体の形は平坦なテーブル状になるが、島野浦島および浦城の港では被覆状の群体が比較的多く見られる。この種の特徴は枝の発達が乏しく、長くても2~3cm程度の枝になり、枝から別の枝の分岐がほぼ見られない。また、枝の形状は円錐形になっている。

- ・色は茶色、濃い緑色。
- ・生息場所は水深5m~10m。

ここに注目！

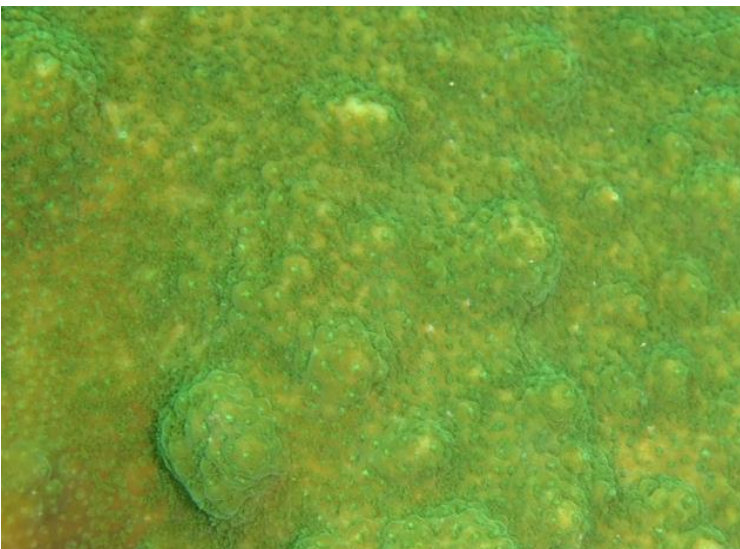
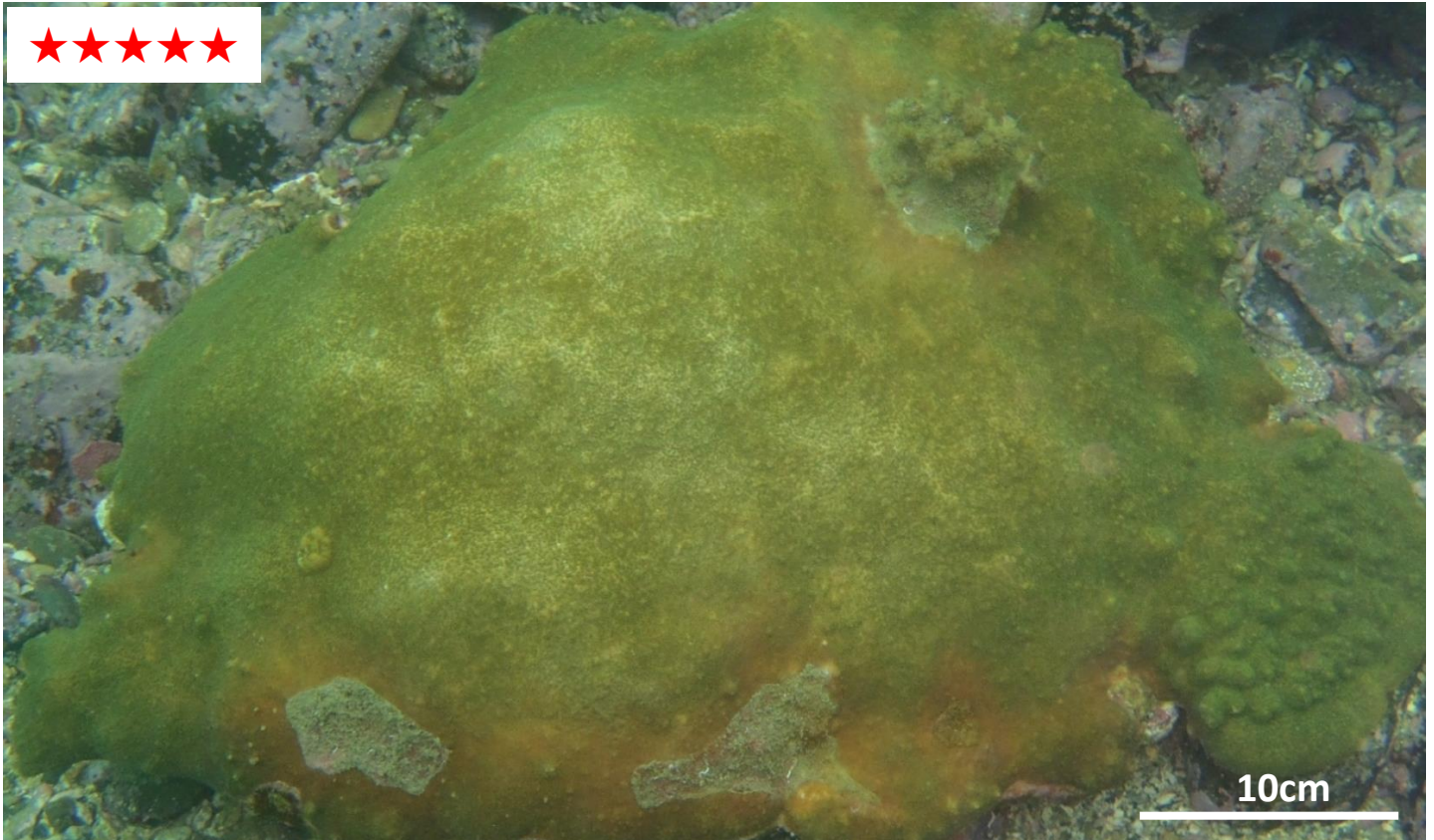
枝は他のミドリイシの種類に比べて太く短い。また、枝の形状は円錐形になる。



骨格の特徴

成長した枝の太さはエンタクミドリイシよりも太い。他のミドリイシと比較しても、太く短いのが特徴である。そのため、骨格も硬めでしっかりとしている。枝の太さは周縁部では1cm未満が多いが、中心部や成長した枝は1cm~1.5cm程度になる。中軸サンゴ個体は大きく、明瞭である。放射サンゴ個体は枝側面から斜め方向に真直ぐに突き出し、枝を覆うように密集して存在する。

ニホンミドリイシのバリエーション



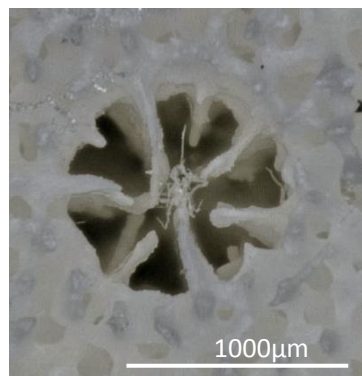
生きているときの特徴

被覆状になったニホンミドリイシである。表面にはうねりが生じ小さなコブが形成される。このコブは枝状になる過程で付着した基盤が潮の流れで転がったため、枝が頻りに折れたためだと考えられる、この形態は基盤が転がる頻度と枝の成長率による結果だと思われる。群体全体の右下にはニホンミドリイシと同じ形状の枝の成長が見られる。

- ・群体の色は淡緑色～濃緑色。
- ・生息場所は水深10m。

ここに注目！

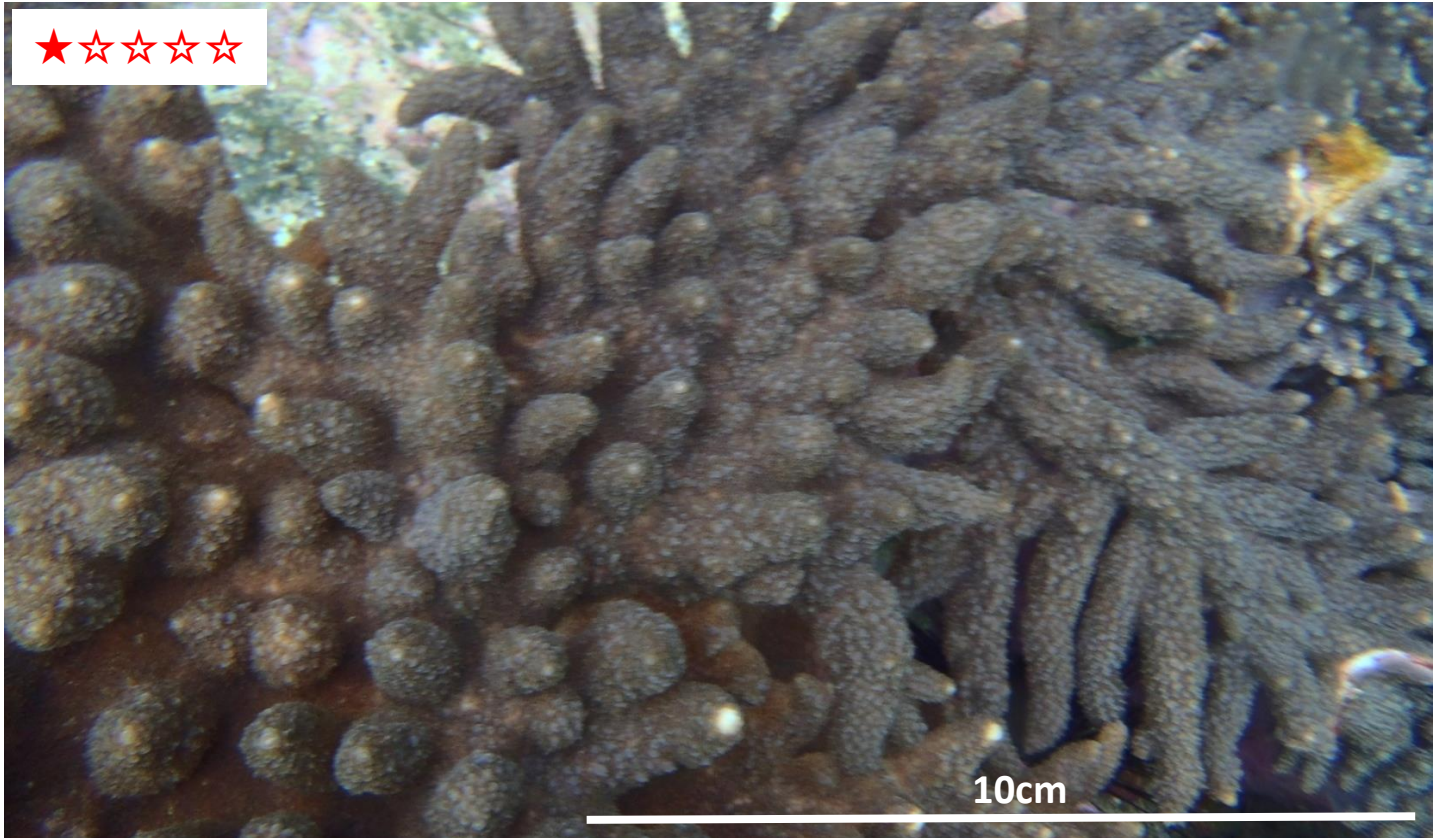
*Montipora*に非常に似ているが、サンゴ個体は表面に埋没せず、円筒状でわずかに突出する。



骨格の特徴

骨格は非常に硬く、表面は少しザラついた様子である。莖の幅は*Montipora*に比べて非常に大きく、1mm程度である。大きい隔壁は6枚であり、目視でも確認できる。サンゴ個体はわずかに突出している。骨格の密度は高く、間隙は少ないが、個体間には極小の孔が多い。同種のテーブル状のサンゴと比較するとわかりやすい。

ニホンミドリイシの類似種 *Acropora* aff. *japonica*



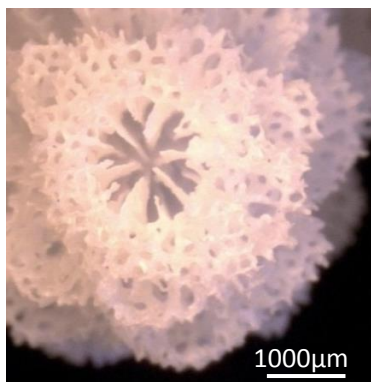
生きているときの特徴

群体は横に広がりをもちながら成長し、樹枝状の形状になる。枝は細いが密集しており、放射状に伸びる。枝の融合はあまり見られないので、隙間が多い。ニホンミドリイシとは形態的に似ているが、枝が長く伸びるなどの違いがあるため別種だと考えられている。

- ・色は青色。
- ・生息場所は水深5m～10m。

ここに注目！

枝の形状や太さはニホンミドリイシに似ているが、ニホンミドリイシより少し細く、比較的枝が長い。枝は全体を通して放射状に伸びる。



骨格の特徴

枝の太さはエンタクミドリイシよりわずかに太めであり、太さは7mm～10mm程度である。中軸サンゴ個体は先端で埋没している。放射サンゴ個体は枝に対して斜めに伸びており、外側の口部分の骨格が少し張り出す。枝の根元では枝同士が融合している。また、サンゴ個体は円筒を斜めに切った様子になる個体が多い。

ヒエエダミドリイシ *Acropora pruinosa*



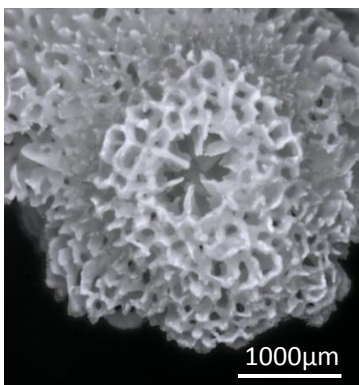
生きているときの特徴

群体型は樹枝状群体になる。枝は分岐する回数が比較的少なく、長く伸びる。枝は同じ部分から分岐することが多い。群体の基部において、枝の根元は密集していても枝同士が融合する様子は見られない。

- ・群体の色は淡い褐色。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

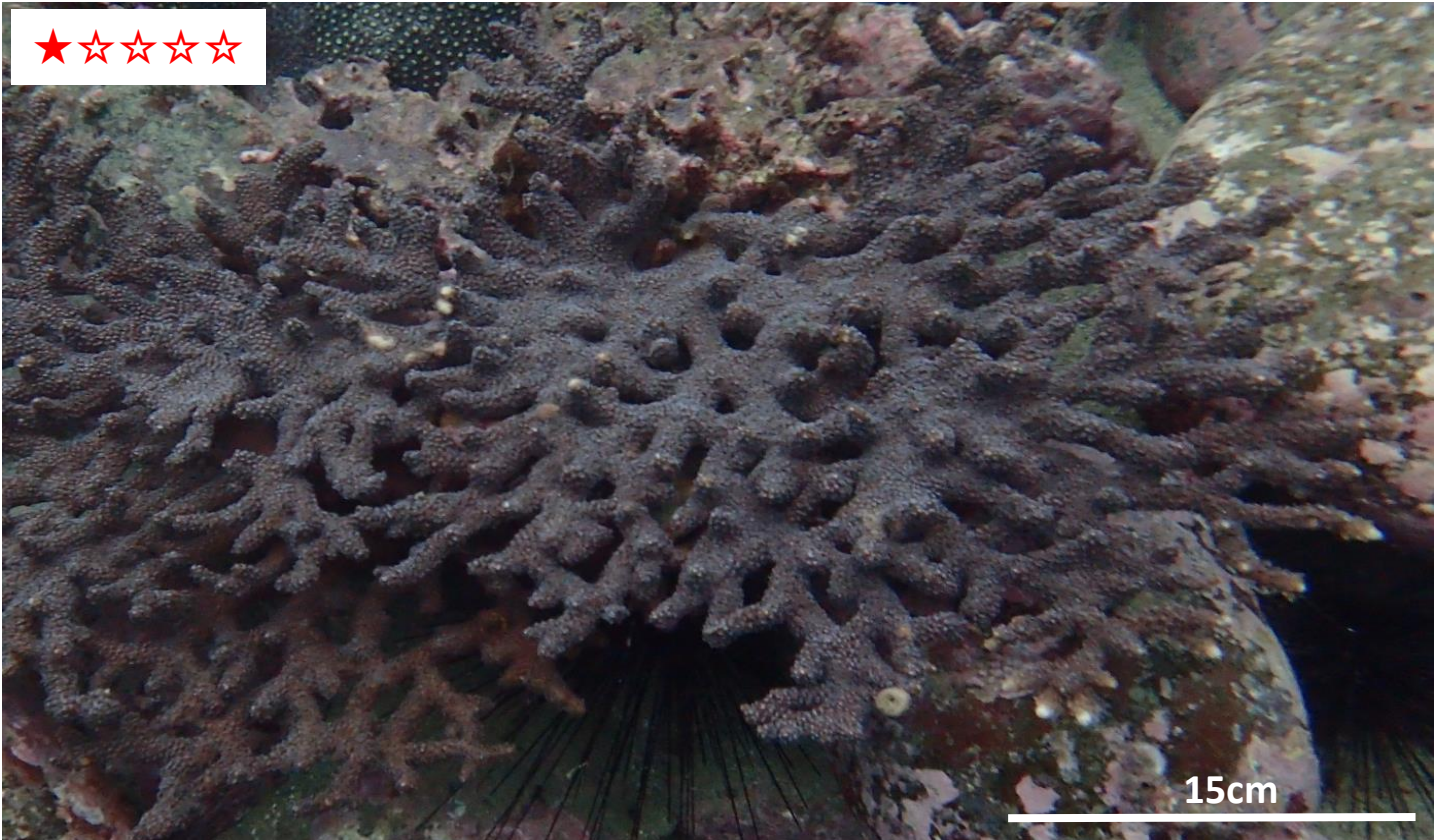
枝は長く、分岐が少ないため、各枝は比較的まっすぐに伸びる。枝の根元では枝同士が融合しない。



骨格の特徴

枝の太さはエンタクミドリイシと同程度の太さであり、太さは根元付近では10mm程度。先端付近では7mm程度である。サンゴ個体の口の大きさはエンタクミドリイシに比べて少し小さめである。また、中軸サンゴ個体はあまり突出しない。放射サンゴ個体は円筒状であり、枝に沿うように伸びる。放射サンゴ個体の長さはエンタクミドリイシよりも少し長めである。口部分の骨格は鋭く張り出す部分はなく、綺麗な輪切りになっている。

エンタクミドリイシ *Acropora solitaryensis*



生きているときの特徴

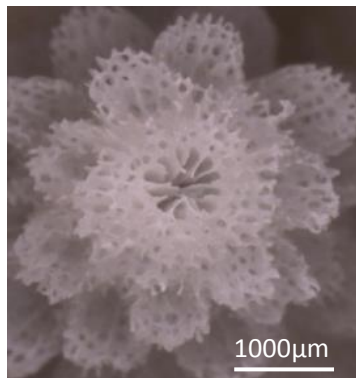
横方向に伸びる太めの枝が融合してできたテーブル状。枝は密集しておらず、上方向に伸びるが長くはならない。ただし、群体のバリエーションが多い。

島浦島では最も多く生息している。温帯域の浅い岩礁では多く見られる種の一つ。

- ・色は茶色、黒っぽい茶色。
- ・生息場所は水深2m～10m。

ここに注目！

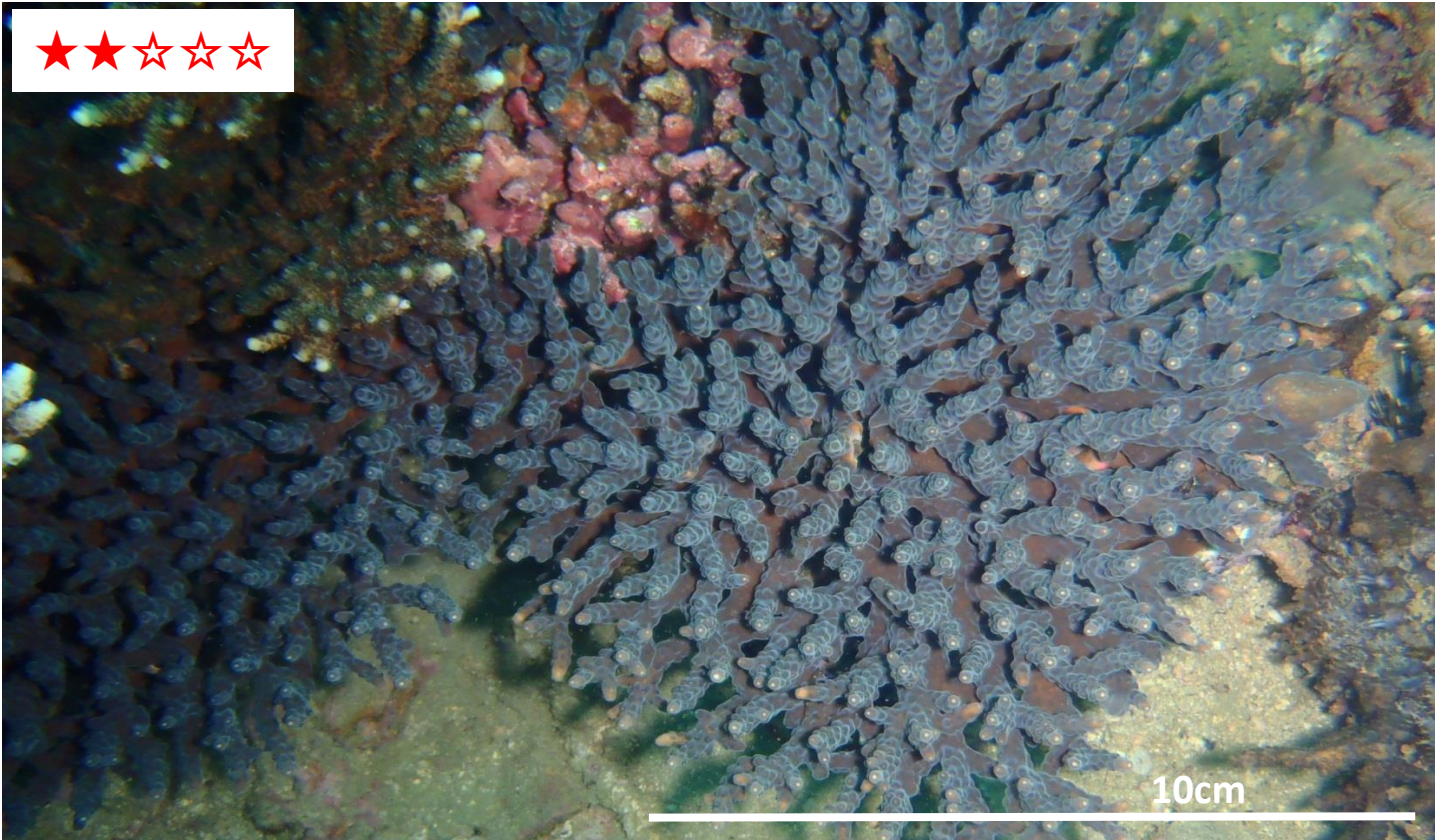
中心部は枝が短く、枝が完全に融合している。周縁部は枝が伸びるため、網目状に見える。



骨格の特徴

枝が太いため比較的硬い。枝の太さは6mm～10mmである。枝先端のサンゴ個体は、比較的太く短い。枝の側面に生えるサンゴ個体は半お椀型の形状で下方からの膨らみがある。サンゴ個体の口部付近はクシハダミドリイシと異なり、尖った部分は無く、きれいな輪切り状になっている。

ホソエダミドリイシ *Acropora valida*



生きているときの特徴

群体は樹枝状になっており、枝は横および縦の二方向に伸び、網目状に広がっている。枝は細くて密集しているが、枝の融合はあまり見られない。枝の太さはエンタクミドリイシよりも明らかに細く、枝の幅はエンタクミドリイシの2/3程度である。

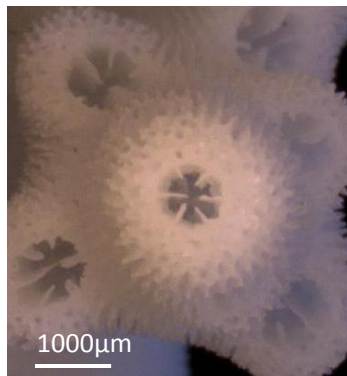
- ・色は濃い青色、藍色。
- ・生息場所は水深5m～10m。

ここに注目！

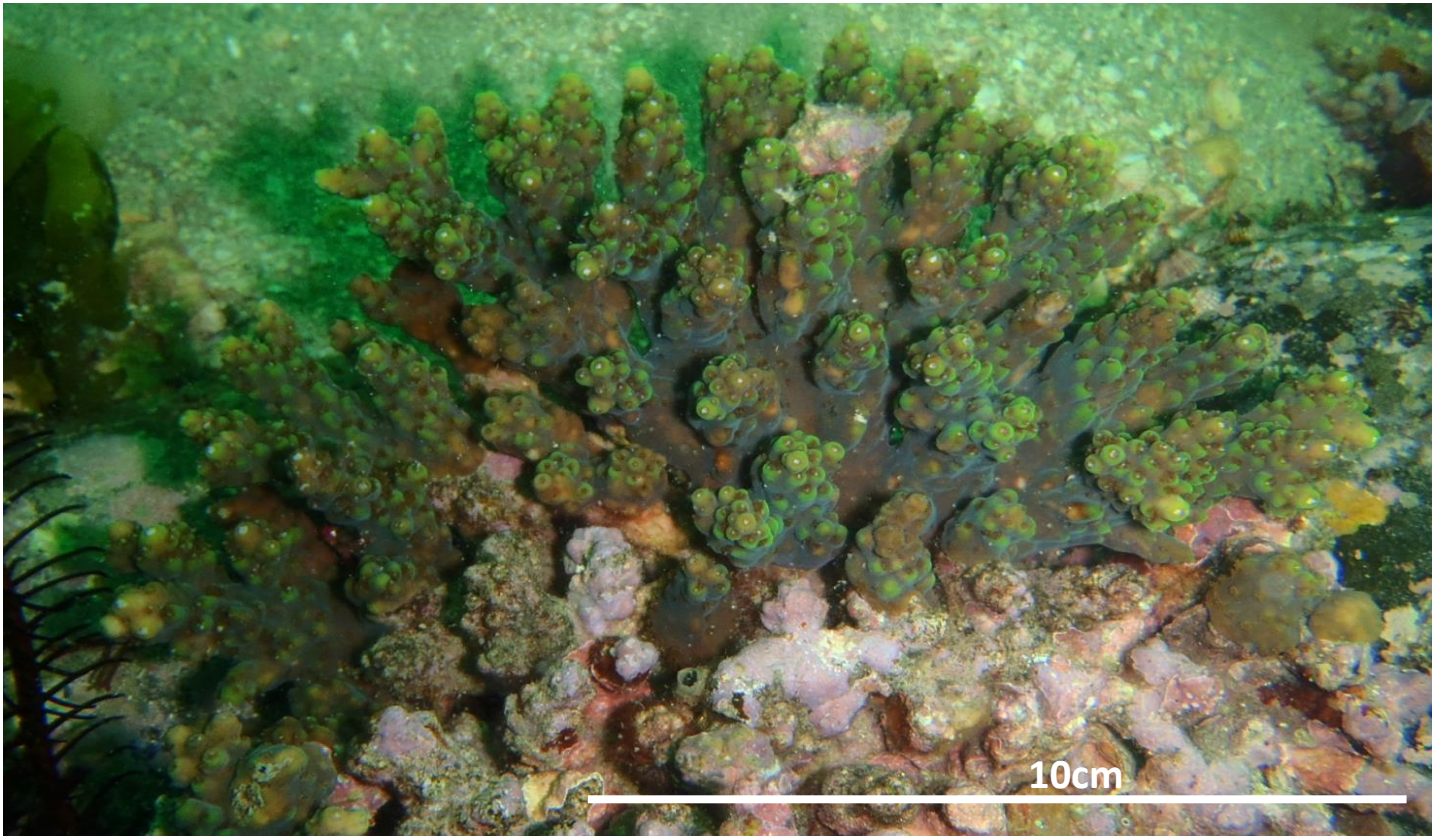
全ての枝の太さがほぼ均一であり、エンタクミドリイシよりも細い。枝は周縁部も基部も放射状に伸びる。

骨格の特徴

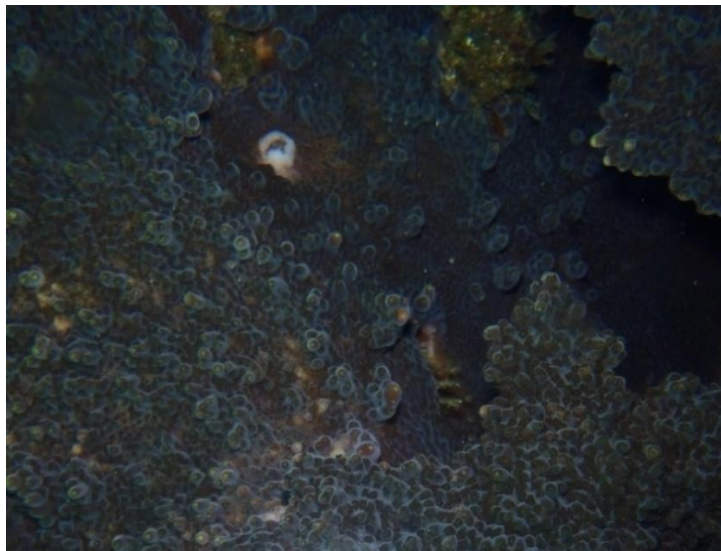
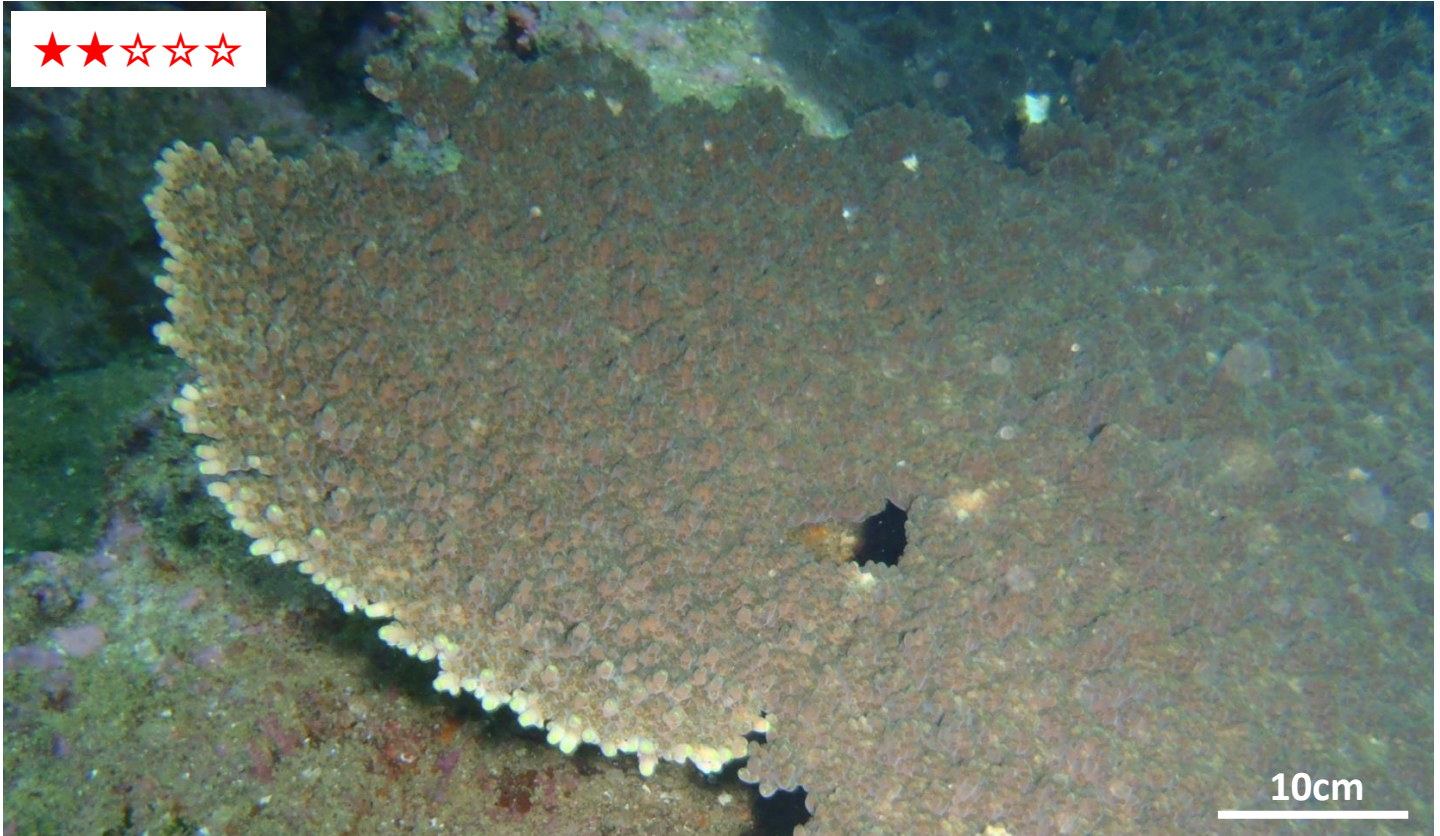
枝の太さはエンタクミドリイシよりも細く、太さは5mm～7mm程度である。中軸サンゴ個体は枝の先端から更に突出しており、明瞭である。中軸サンゴ個体の形状は円筒形～先細りの煙突形になる。放射サンゴ個体は枝に沿うように生え、エンタクミドリイシのように枝の側面から飛び出す様子はあまりない。群体全体を通して、枝に埋まるような放射サンゴ個体が多い。サンゴ個体の口径は短く、1mm程度である。



ホソエダミドリイシのバリエーション



ミドリイシ属の一種 *Acropora* sp. 1



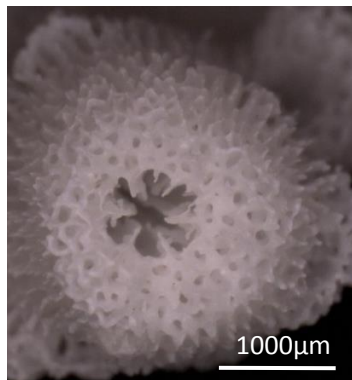
生きているときの特徴

群体はテーブル状になっており、全体的に各枝は融合している。各枝は横にしっかりと伸びるが、垂直方向にはあまり伸びない。群体の周縁部では、わずかに分岐しており、枝の先端には中軸サンゴ個体が生えているため、ミドリイシ属であることがわかる。

- ・枝の先端は緑色、基部の近くは青色っぽい緑色。
- ・生息場所は水深5m～10m。

ここに注目！

群体の枝は全体を通して融合している。
群体は主に横方向に成長し、テーブル状に広がる。



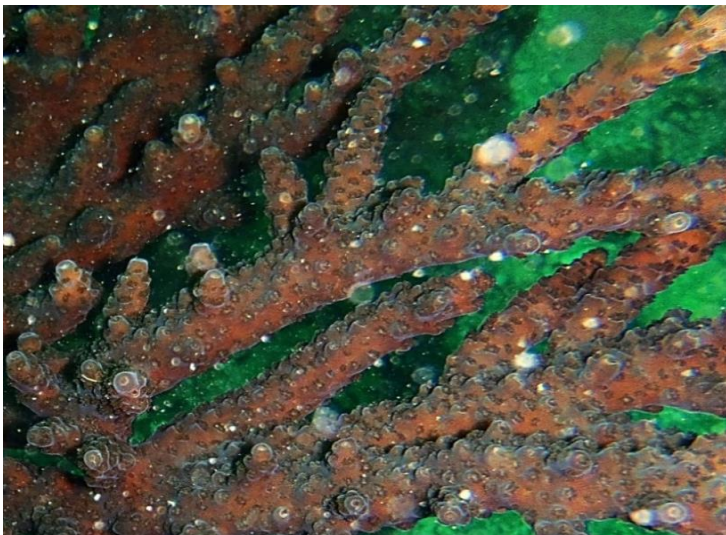
骨格の特徴

枝はあまり発達せずに各枝が融合するため、群体型はテーブル状のようになる。群体の周縁部で樹枝状に分岐している場合、枝の太さは4mm～8mmである。中軸サンゴ個体は枝の先端から突出しており、円筒状になっている。放射サンゴ個体も円筒状で突出するが、多くの個体は共骨に埋没している様子である。口が小さく、1mm以下が多い。

Acropora sp. 1 のバリエーション



ミドリイシ属の一種 *Acropora* sp. 2



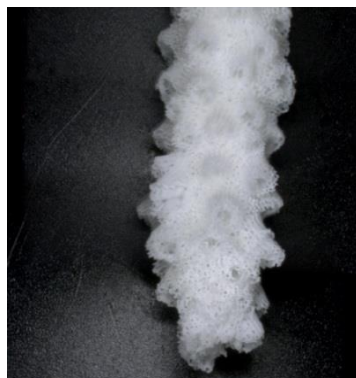
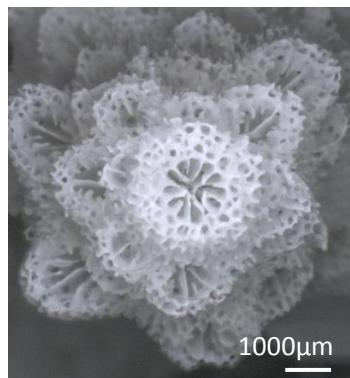
生きているときの特徴

群体は樹枝状になっており、枝の根元付近では枝同士の融合が見られるが、それ以外での融合はあまり見られない。ヒメエダミドリイシの形状に似ているが、この種のほうが色は濃く、枝もわずかに太めである。枝の太さや様子はエンタクミドリイシに似ているが、分岐した枝が非常に短く、細く、いびつな形状をしているため、別種と考えられる。

- ・群体の色は濃い褐色、茶色。
- ・生息場所は水深5m～10m。

ここに注目！

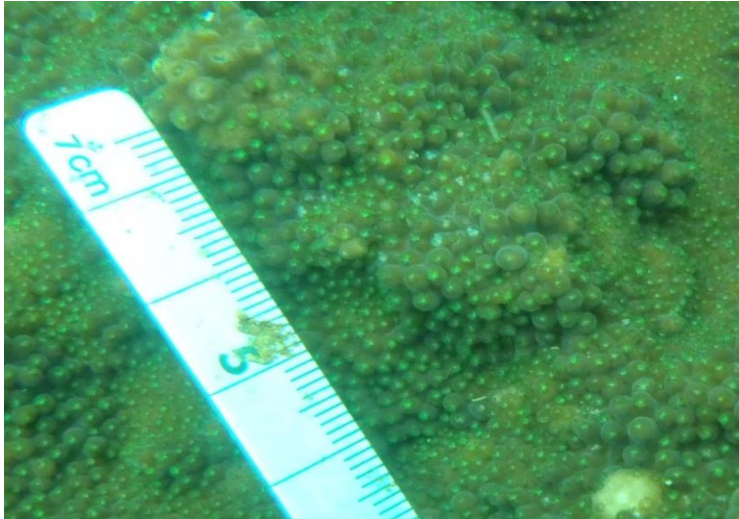
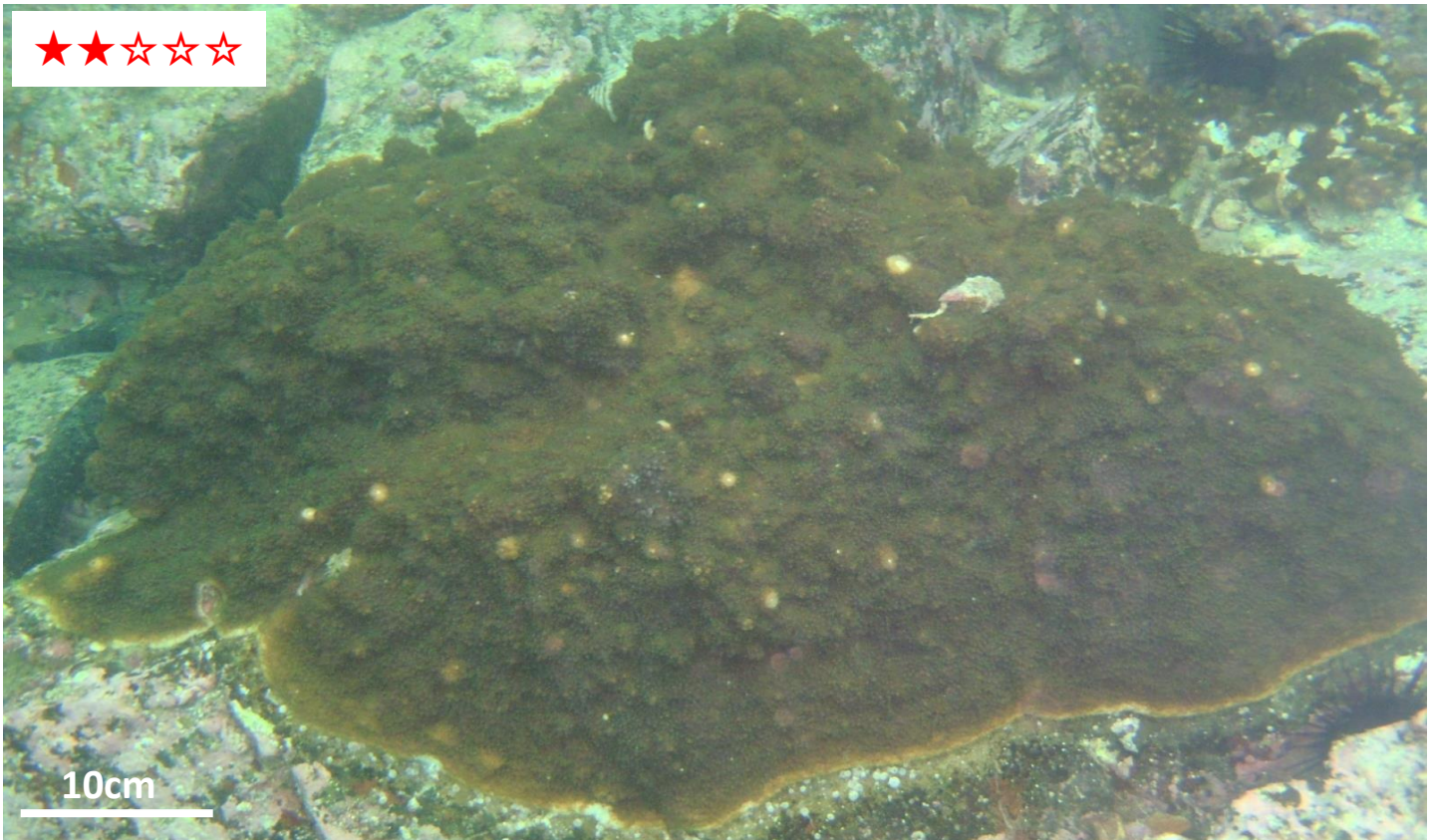
群体は樹枝状であり、太い枝から細い枝が複数生える。分岐した枝はいびつな形状をしている。



骨格の特徴

群体は樹枝状であるためヒメエダミドリイシに似ているが、ヒメエダミドリイシよりも枝の分岐回数が多く、放射サンゴ個体の形状がいびつである。枝の太さはエンタクミドリイシに似ており、中軸サンゴ個体が突出し、比較的大きい。ミドリイシ属の各種に類似しているが、同種とは考えにくいいため、交雑種ではないかと考えられる。

ヒラニオウミドリイシ *Isopora cuneata*



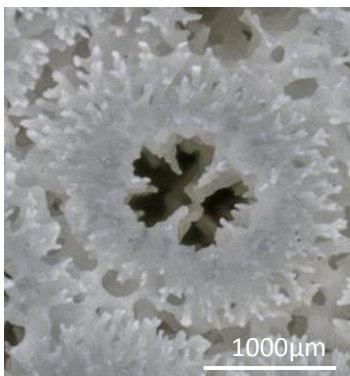
生きているときの特徴

被覆状の群体になる。コブ状の膨らみが不規則に群体の表面に存在する。群体の表面にはミドリイシ属に似た円筒状のサンゴ個体が存在し、垂直もしくは斜めに向いた複数の中軸サンゴ個体と放射サンゴ個体が密集している。

- ・群体の色は淡褐色～深緑色。
 - ・生息場所は水深5m～10m。
- ※*Acropora cuneata* で掲載されている可能性がある。

ここに注目！

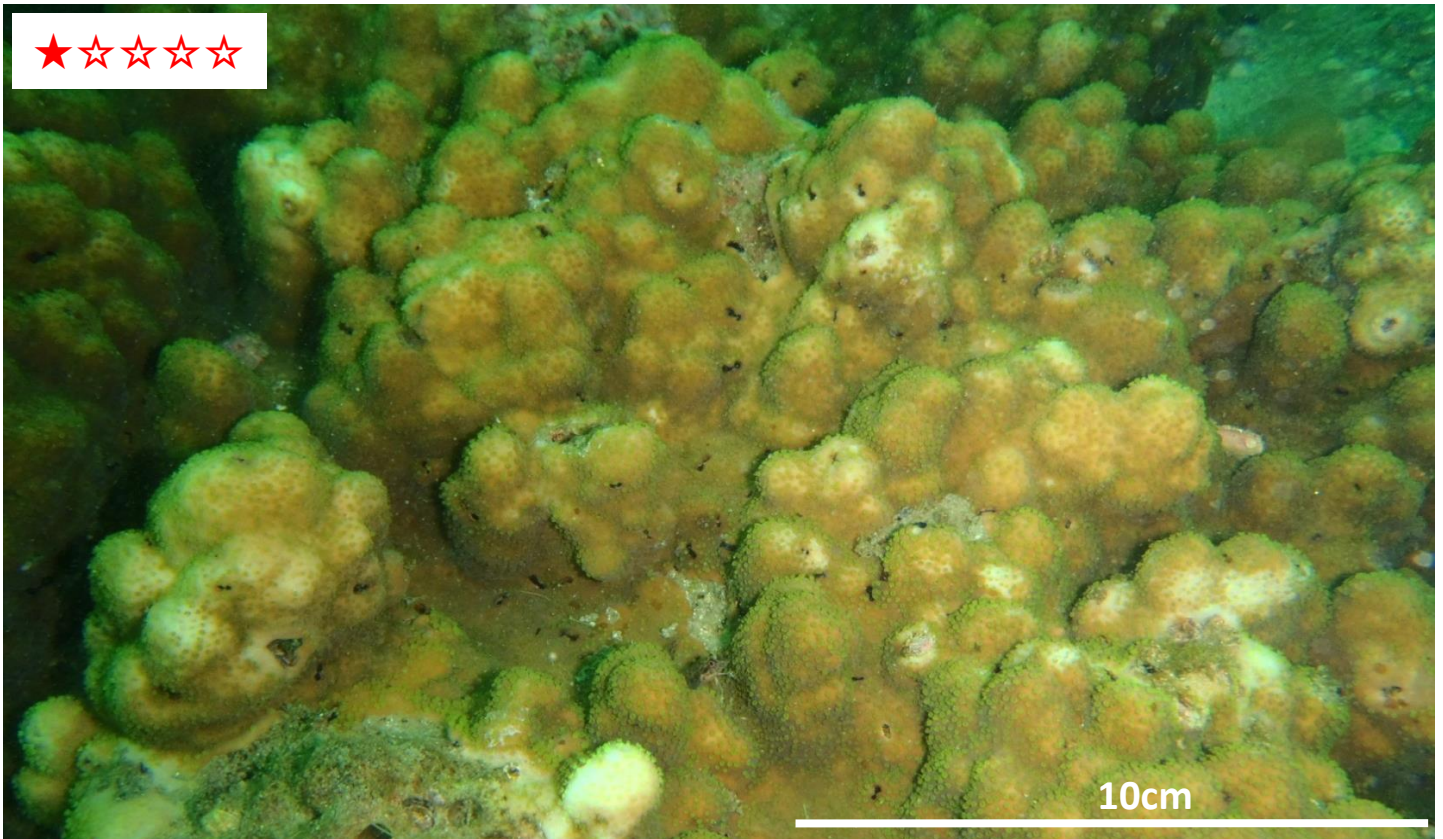
*Acropora*とは異なり、中軸サンゴ個体は複数存在する。サンゴ個体は円筒状に張り出す。



骨格の特徴

骨格は非常に硬く、表面からは全てのサンゴ個体が不規則に突出する。莖の幅は非常に小さく1mm～1.2mm程度である。目視での確認は難しいが、隔壁は大小合わせて6枚になる。サンゴ個体は個々に独立しており、隣接する個体の肋が完全に融合することはない。

モリスコモンサンゴ *Montipora mollis*



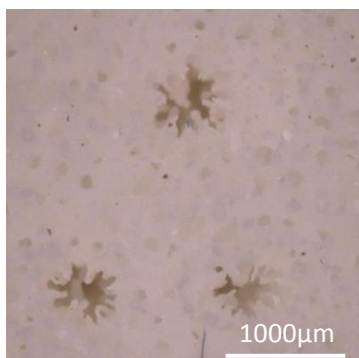
生きているときの特徴

枝は作らずに被覆状、もしくは塊状を形成する。群体は不規則に小さなコブが多く形成される。表面にはポリプがわずかに伸びている。また比較的、サンゴフジツボが埋没して、生息する。

- ・群体の色はうすい茶色、きつね色。
- ・生息場所は水深3m~15m。

ここに注目！

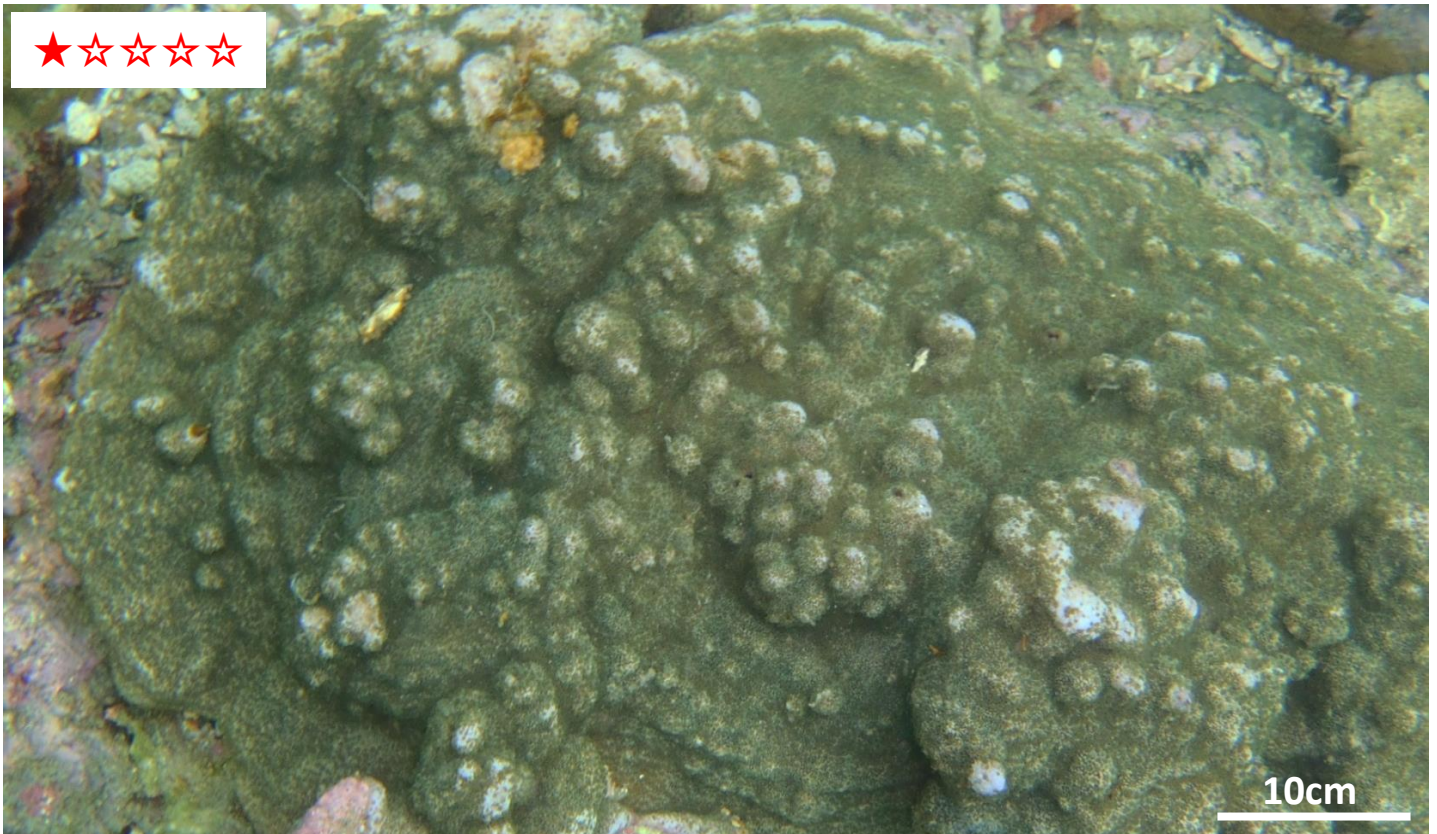
群体は丸みがある塊状。
ポリプの大きさに違いはなく、全体を通して均一に配置してある。



骨格特徴

骨格は非常に硬く、表面は少しざらつく。莢の幅は非常に小さく0.8mm~1mm程度である。目視では確認できないが、隔壁は大小合わせて12枚になる。サンゴ個体は完全に埋没してあり、骨格表面に莢壁や肋は存在しない。骨格の密度は高く、間隙はほとんどないが、個体間には極小の孔が多い。個体はコブ上には少なく、コブ間の谷に密集する。

イタイボコモンサンゴ *Montipora peltiformis*



生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体になる。群体表面からは大小様々なコブが不規則に形成される。コブは群体周縁部につれて小さく、少なくなり、中心付近では大きくなる。ポリプは粒状に小さく、屋間でもわずかに突出する。

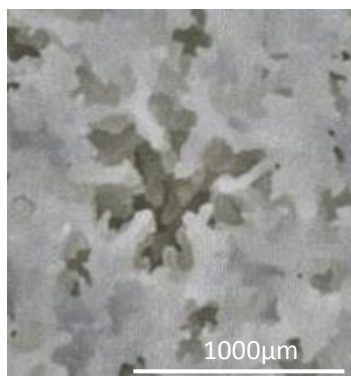
- ・群体の色は淡緑色～淡褐色。
 - ・生息場所は水深3m～15m。
- ※(新称) ムラサキコモンサンゴ

ここに注目！

コブの大きさは不規則に突出する。ポリプ間には非常に小さい粒が多数存在する。

骨格の特徴

骨格は硬く、表面は少しざらつく。莖の幅は非常に小さく1mm程度である。目視では確認できないが、ほとんどの隔壁は6枚になる。サンゴ個体は完全に埋没している。個体間には極小の孔が多く、群体表面には非常に小さい粒が多く存在する。



アバタコモンサンゴ *Montipora turgescens*



生きているときの特徴

群体は被覆状になっており、表面には無数のコブ状の突出が不規則に存在する。コブの大きさは周縁部の方が群体中央に比べて小さいが、規則性はない。周縁部では、基盤に被覆せず、群体が少し浮き上がり葉状になる場合がある。日中にポリプが触手を伸ばすことはほぼない。

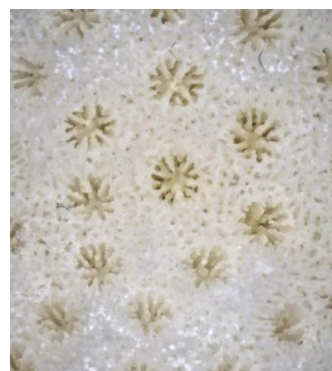
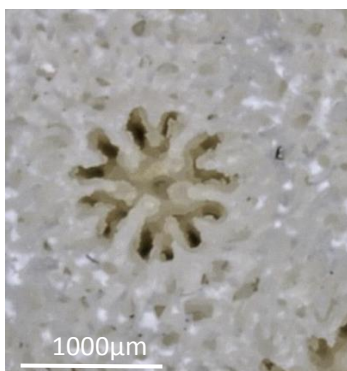
- ・色は黒っぽい茶色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

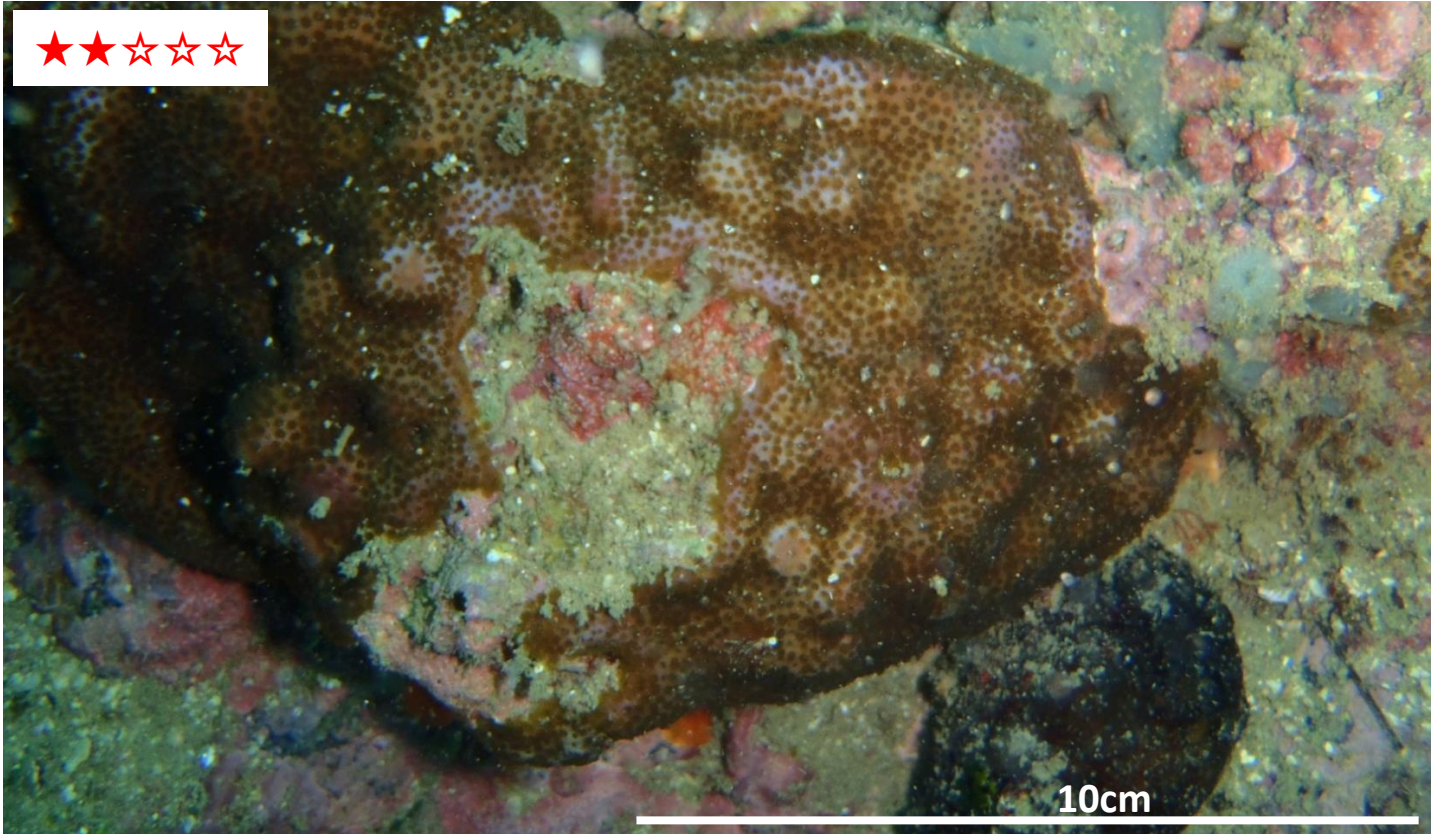
群体表面をコブ状の突出が覆っている。他のコモンサンゴに比べてコブが大きく、数が多い。

骨格の特徴

骨格は硬く、表面は少しざらつく。莢の幅は1mmより少し大きめである。隔壁は12枚であり、一次隔壁が6枚であるので、他のコモンサンゴ属と同様にミドリイシ科であることがわかる。サンゴ個体同士は一定の距離が空いている。また、サンゴ個体はきれいな円形をしている。個体間の共骨部分には小さな孔が大量にある。目視では確認しにくいですが、他のコモンサンゴに比べて莢壁が明瞭である。



アバタコモンサンゴ類似種 *Montipora* aff. *turgescens*



生きているときの特徴

被覆状の群体になり、表面から高さがほとんどない小さなコブを多く形成する。表面からポリプが突出することはほとんどないが、非常に小さいサンゴ個体が不規則に等間隔で配置しているのが確認できる。

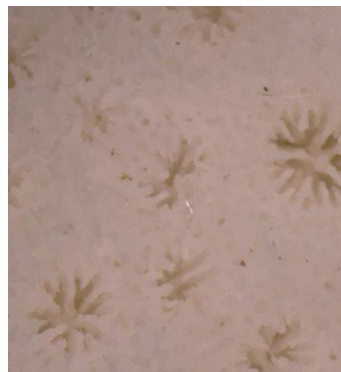
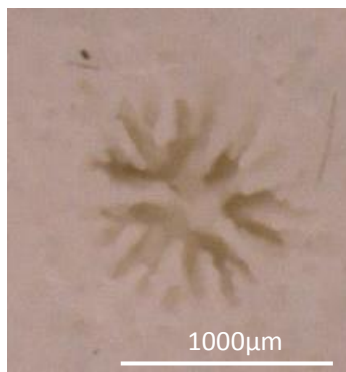
- ・ポリプは褐色になり、その他は灰色や薄い紫色。
 - ・生息場所は水深5m～15m。
- ※「フィールド図鑑 造礁サンゴ」ではこちらの種を掲載していた可能性がある。

ここに注目！

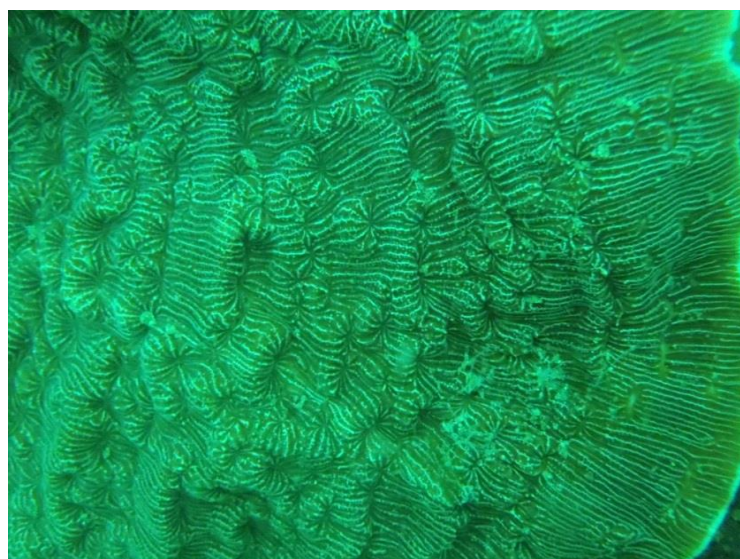
表面に非常に小さいコブが多くできる。

骨格の特徴

骨格は非常に硬く、表面は少しざらつく。莢の幅は非常に小さく1mm程度である。目視では確認できないが、隔壁は大小合わせて18枚になる。サンゴ個体は完全に埋没しており、骨格表面に莢壁や肋は存在しない。骨格の密度は高く、間隙はほとんどないが、個体間には極小の孔が多い。



センベイサンゴ *Leptoseris explanata*



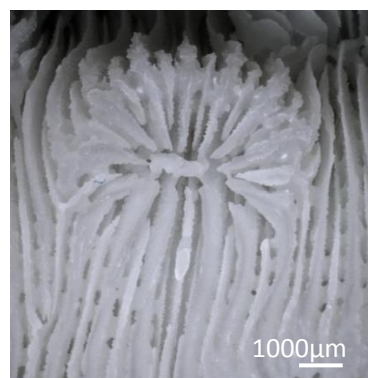
生きているときの特徴

被覆状もしくは葉状の群体になる。群体の周縁部の色は薄くなり、端は白くなる。サンゴ個体は群体の表の面にのみ存在する。サンゴ個体は中心から周縁部に向かって放射状に傾く。アバタセンベイサンゴに比べてサンゴ個体は大きく、個体間には少し隙間ができる。

- ・群体の色は淡い緑色～茶色。
- ・生息場所は水深10m～15m。

ここに注目！

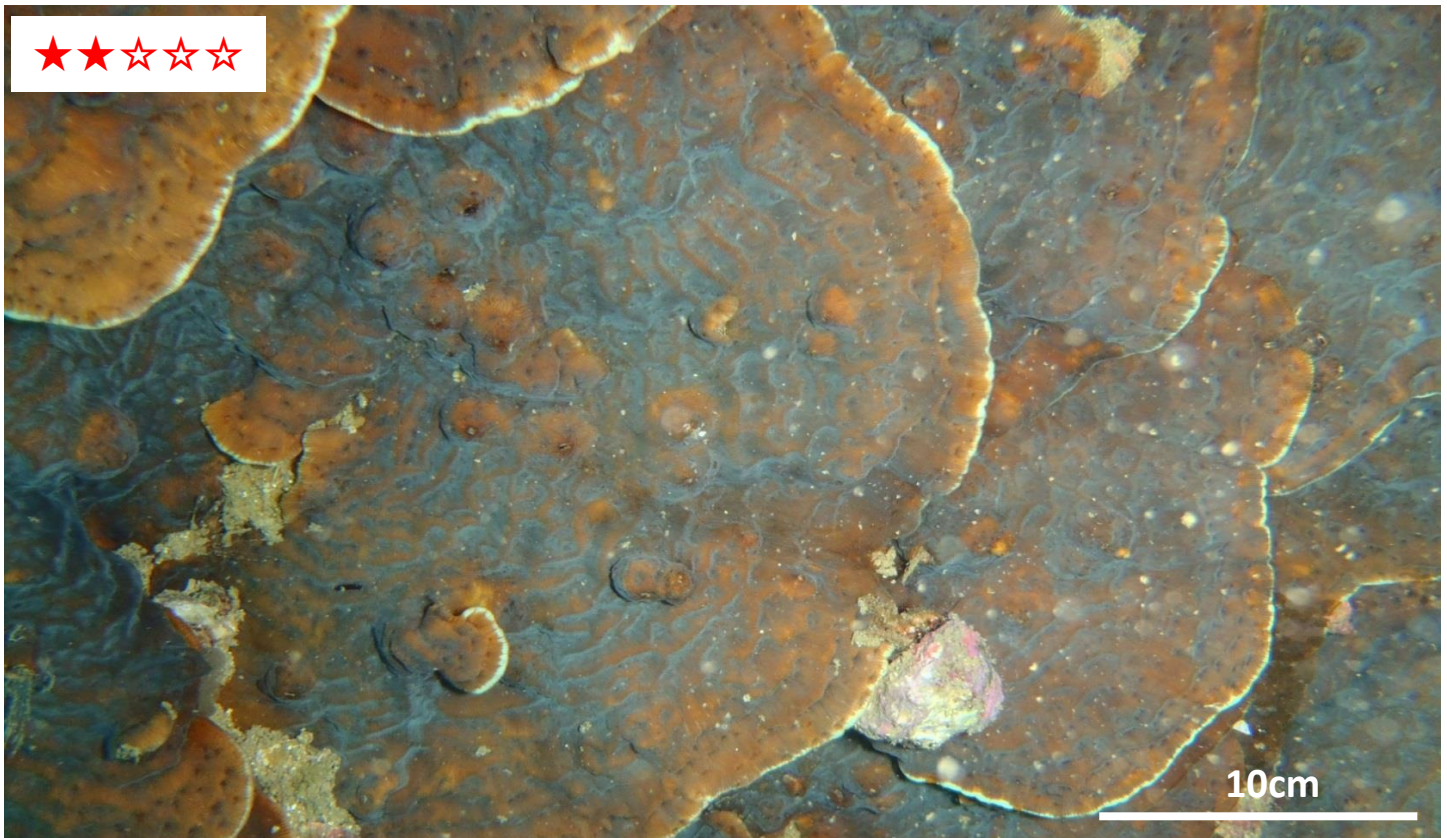
サンゴ個体は楕円形であり、大きさは不均一。サンゴ個体は周縁部に向かって傾いている。



骨格の特徴

群体の骨格は全体を通して薄く、周縁部の骨格は非常に薄くなる。サンゴ個体は楕円形であり、隔壁と肋はよく発達している。肋は途中で途切れることはなく他のサンゴ個体の肋と共有するように繋がっている。肋は厚みのあるものと薄いものが交互に配列しており、均一でない。軸中は発達しており、楕円形になることが多い。

アバタセンベイサング *Leptoseris mycetoseroides*



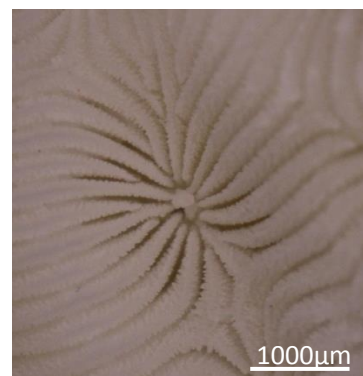
生きているときの特徴

キノコのマスタケのように岩場からテーブル状の群体を形成する。サング個体は存在するが、群体の表面に沈んでいる。サング個体の形状は楕円形が多く、ほとんどの個体の長径は5mm以下。サング個体の多くは基本的に個々が独立しているが、横に隣接している3~5個の個体が莢壁を共有し、一列に連なることがある。

- ・群体の色は茶色、もしくは淡い青色。
- ・生息場所は水深10m~15m。

ここに注目！

サング個体を分ける莢壁は存在するが、サング個体とおしを繋げて存在する場合がある。



骨格の特徴

サング個体の最大直径は2~3mm程度である。サング個体は群体表面に存在し、葉状部の裏面などにサング個体は存在しない。一般的に、サング個体は群体の中心部から同心円状で、数個体ごとに連続して配列している。隔壁は3次まで存在すると思われるが、隔壁の次数による隔壁の厚みに変化がなく、厚みはほぼ均一である。

シコロサンゴ *Pavona decussata*



生きているときの特徴

うちわ型の群体が定着面から垂直に伸びる。表面にうねりはほとんどなく、厚みのある平坦な板状の群体になる。両面の境には触手が存在しない。この種は両面ともポリプが存在する。ポリプは日中も触手を伸ばしている。

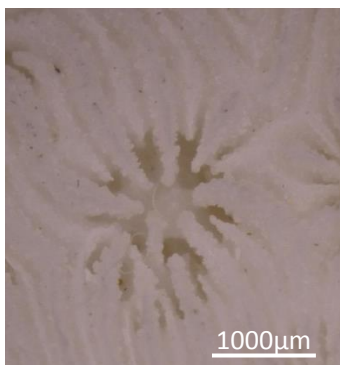
- ・群体の色は茶色、触手の色が薄い緑色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

板状で半円形の群体になることが多い。ポリプは群体の両面に存在する。

骨格の特徴

隣接するサンゴ個体どうしが連続することはなく、個々に独立して存在する。サンゴ個体の形状は楕円形に広がる事が多く、大きさは2mm～5mmである。サンゴ個体から伸びる肋は周縁部に向かい、よく発達している。隔壁は一次から三次隔壁まで存在する。一次隔壁は軸中に達するが、二次・三次隔壁は到達することがほとんどない。軸柱はあまり発達しなく、非常に小さいため目視では確認しにくい。



ヒラシコロサンゴ *Pavona explanulata*



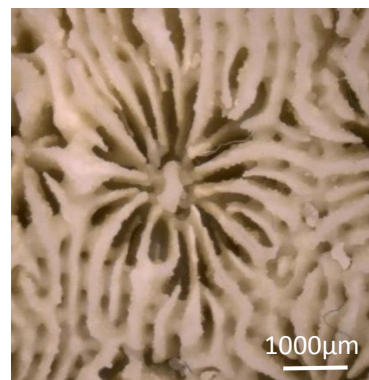
生きているときの特徴

被覆状の群体を形成し、群体の大部分は基盤に密着しながら広がるが、周縁部では基盤から浮き上がり葉状になることがある。群体の表面は昼間でも多くの触手を伸ばしており、触手の先端は若干の膨らみが見られる。

- ・群体の色は茶色、触手の色が薄い緑色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

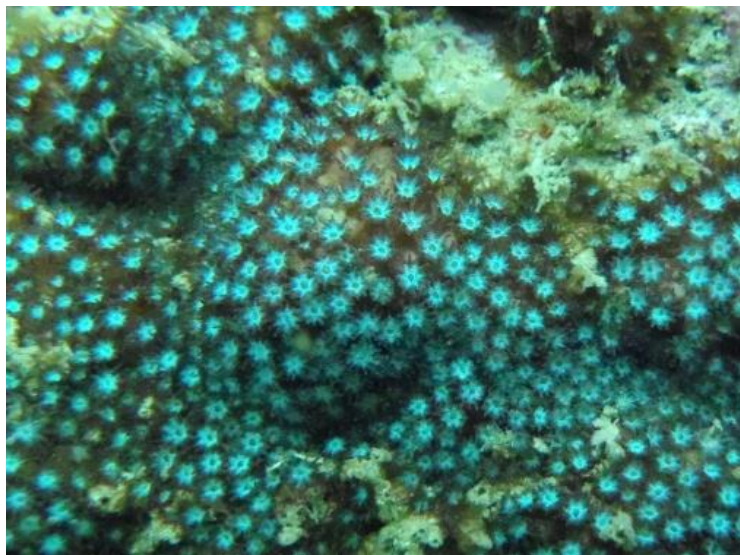
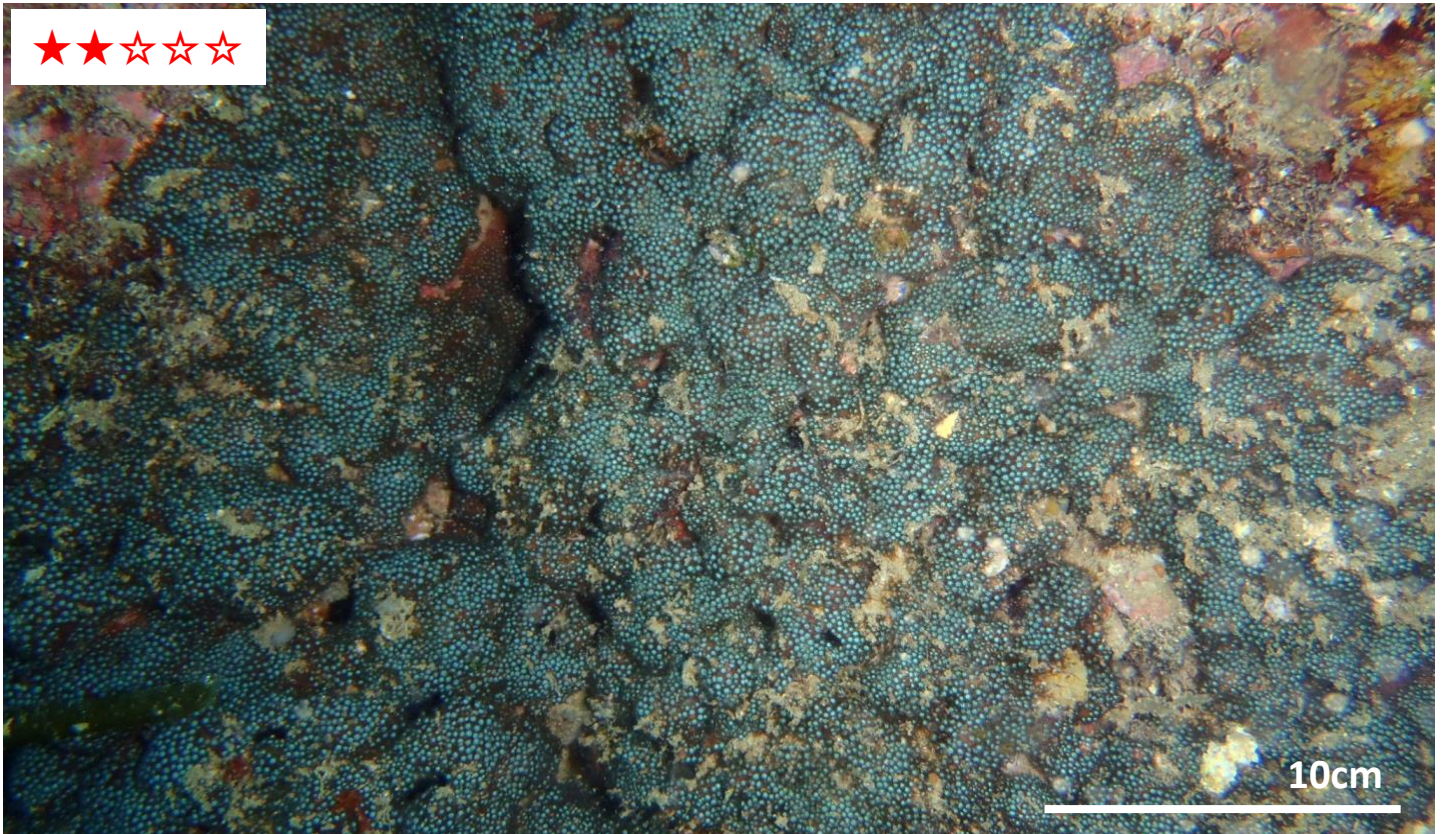
ポリプは日中も触手を伸ばしていることが多い。触手は膨らみがあり、短い。



骨格の特徴

サンゴ個体は円形状であることが多い。莖壁よりも上部に隔壁および肋が発達している。そのため、個々の個体が独立して存在することが確認できる。軸中は円形や楕円形でよく発達している。個体同士は密集しているが、個体間には隙間がある。シコロサンゴ *Pavona decussata* とはポリプの生え方が両面性かどうかで判断できるが、隔壁の枚数でも区別しやすい。この種はシコロサンゴに比べて、隔壁の枚数が多い。

ムカシサンゴ *Stylocoeniella guentheri*



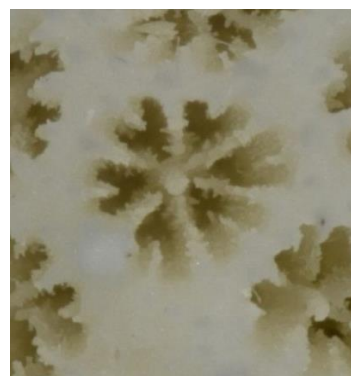
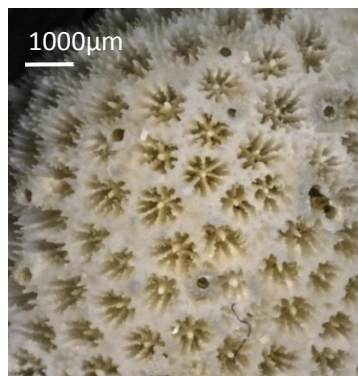
生きているときの特徴

被覆状の群体であるが、基盤を埋め尽くさずに拡散して広がる。表面にはうねりがあり、盛り上がりが生じる。ポリプは非常に小さく、昼間でも少し立ち上がるように伸びている。ポリプはラッパ状に開き、真上から見た形状は星型のように見える、。

- ・口盤が緑色で、他が褐色になる。
- ・生息場所は水深0m以深。

ここに注目！

ポリプは昼間でも伸ばしており、大きさは1mm程度。ポリプは群体表面から少しだけ立ち上がる。



骨格の特徴

サンゴ個体は非常に小さく、形状は円形～多角形で不規則である。莖における個体の角の頂点に極小の突起が形成される。また、隔壁の側面には多数の粒状の突起が形成する。隔壁は2次隔壁までで、1次隔壁は莖壁付近で厚く、莖芯に向けて薄くなる。2次隔壁は1次隔壁に比べて薄く、半分以下の長さになる。